「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 北海道が開催されました。

令和 6 年 1 月 22 日(月)、こどもや子育てに関わる全ての人が、共に育ちあう地域を創出し、こどもや子育て世代を社会全体で支える気運の醸成を図ることを目的として、『「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 北海道』が札幌エルプラザで開催されました。

第1部では、北海道知事と札幌市長の主催挨拶、北海道議会子ども政策調査特別委員会委員長の来賓挨拶と、こども政策担当大臣のビデオメッセージの後、北海道妊婦・子育て世帯優先マークの愛称「こもりん」の発表と表彰式、玉川大学教育学部教授の大豆生田啓友氏による基調講演を実施。第2部では、道内で活動する5つの子育て支援関係者による取組事例の紹介とトークセッションが行われました。

鈴木知事による主催挨拶

愛称「こもりん」の表彰式の様子

大豆生田啓友氏の基調講演

子育て支援関係者のトークセッション

基調講演「こどもまんなか社会の実現のために～親も子も共育ち」

大豆生田啓友氏の基調講演では、自らの子育て経験を交えながら、子育ての大変さや子育てをする人を救ってくれる存在について触れ、地域で子育てをする社会をどう作れるかが現代の課題であると語りました。日本は他の OECD 加盟国と比べ、こどもの心理的健康度や社会的健康度が低いという研究結果を紹介。貧困など、こども達が置かれている環境の課題については、“こどもは権利の主体”という考えを持ち、その子の思いや考えを丁寧に聞き、“その子らしさ”を大事にしてあげることが重要との話に会場でもうなずく姿が見られました。

講演の後半では、子育ての大切さを伝える羅針盤として昨年 12 月 22 日に閣議決定された「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100か月の育ちビジョン)」を紹介。産前産後から小学校に入ったところまでが生涯にわたるウェルビーイングに向けてとても大切な時期と位置づけ、「こどもの権利と尊厳を守る」「『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める」「『こどもの誕生前から切れ目なく育ちを支える』」「保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする」「こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す」という5つのビジョンについて解説。大人も自分らしく子育てに係われる社会になることを願い講演を終えました。

トークセッション

札幌市子ども未来局子育て支援部、東神楽町健康ふくし課、パパ育休プロジェクト、社会福祉法人麦の子会、学校法人登別立正学園認定こども園とこども家庭庁が参加し、道内で活動する各団体の取組事例を紹介。札幌市の「第4次さっぽろ子ども未来プラン」に基づいた父親による子育て推進事業、東神楽町の親にスポットをあてた「ママのまんなか」子育て支援プロジェクトやアプリの活用事例、パパ育休プロジェクトが推進する父親同士がつながり子育てを学べる様々な取組。そして、麦の子会が取り組む愛着形成を基盤にした障がいを抱えた親子への支援や、登別立正学園認定こども園による「こども誰でも通園制度モデル事業」など、各団体が特徴とリソースを活かした取組を紹介しました。コーディネーターの北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター准教授である川田学氏からの質疑応答に対し、こども家庭庁成育局成育環境課長は、こども誰でも通園制度は全国どこでも等しく使用可能な試行事業として実施することで、各地域の実情や課題を分析し本格的な制度に結び付けたいと述べました。また、これをひとつのきっかけとして、特に 0 歳から 2 歳のこどもを抱える家庭の困り事へのリーチや他の支援への連携も狙いとし、こどもたちが健やかに成長することを最も大切にする考えを示しました。

今回の「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 北海道の模様は、
今後公表される北海道による開催レポートを通じて、道民の皆様にも広く発信される予定です。

【概要】名称:「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 北海道/ 場所:札幌エルプラザ / 日程:令和 6 年1月 22 日(月) / 内容:《基調講演》大豆生田啓友「こどもまんなか社会の実現のために～親も子も共育ち」 / 主催:北海道、札幌市 / 共催:こども家庭庁